



2021年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年2月4日

上場会社名 大正製薬ホールディングス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4581 URL <https://www.taisho-holdings.co.jp/>
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名) 上原 明
 問合せ先責任者 (役職名)コーポレートコミュニケーション部長 (氏名) 田中 慎一 (TEL) 03-3985-2020
 四半期報告書提出予定日 2021年2月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第3四半期の連結業績(2020年4月1日～2020年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	214,300	1.4	20,864	22.1	24,742	22.0	14,235	△20.0
2020年3月期第3四半期	211,338	5.7	17,086	△39.2	20,273	△43.9	17,793	△65.4

(注) 包括利益 2021年3月期第3四半期 16,541百万円(88.0%) 2020年3月期第3四半期 8,800百万円(△80.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第3四半期	178.35	178.12
2020年3月期第3四半期	222.93	222.67

(注) 1 前連結会計年度末において、DHG(ハウザン)社との企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2020年3月期第3四半期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

2 第1四半期連結会計期間において、UPSA社との企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2020年3月期第3四半期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第3四半期	861,329	745,217	83.1
2020年3月期	864,974	739,778	82.0

(参考) 自己資本 2021年3月期第3四半期 715,788百万円 2020年3月期 709,374百万円

(注) 第1四半期連結会計期間において、UPSA社との企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2020年3月期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	50.00	—	60.00	110.00
2021年3月期	—	50.00	—		
2021年3月期(予想)				50.00	100.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	283,000	△1.9	21,000	△0.7	25,500	4.2	14,000	△30.6	175.42

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年3月期3Q	85,139,653株	2020年3月期	85,139,653株
② 期末自己株式数	2021年3月期3Q	5,322,892株	2020年3月期	5,325,613株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年3月期3Q	79,816,237株	2020年3月期3Q	79,815,482株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(四半期連結損益計算書)	7
(第3四半期連結累計期間)	7
(四半期連結包括利益計算書)	8
(第3四半期連結累計期間)	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(企業結合等関係)	9
(セグメント情報)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間のOTC医薬品市場は、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う外出自粛やマスクの着用や手洗い、うがいなどの感染症予防対策の定着の影響などから、第2四半期に引き続き総合感冒薬や鎮咳去痰剤といったカテゴリーを中心に大きく前年を下回る結果で推移しました。

医薬事業につきましては、新薬創出の難易度が増すなかで、医療費適正化諸施策の浸透により、依然として厳しい事業環境が続いております。

こうした事業環境の中で、当社グループのセルフメディケーション事業部門は、製品開発面で生活者の健康意識の高まりに対応した新しい領域を開拓していくとともに、生活者のニーズを満たす製品開発をより一層進め、新たな需要の創造に努めております。また、販売面では生活者から支持される強いブランドを目指して、生活者との接点の拡大、共感を得る販促活動を実践するとともに、「大正製薬ダイレクト」、「TAISHO BEAUTY ONLINE」など、生活者のベネフィットを満たす通信販売チャネルの拡大にも注力しております。

海外では、2009年度のアジアOTC医薬品事業への本格的な参入以来、インドネシア、フィリピン、タイ、マレーシアなど、東南アジアを中心としたOTC医薬品事業の強化に取り組んでまいりました。2016年7月に24.50%の株式を取得し、段階的に出資比率を高めてきたベトナムのDHG（ハウザン）社は、2019年5月に51.01%の株式保有に至り、連結子会社となりました。今後は、同社の事業基盤を活かしたベトナムにおける医薬品事業展開の強化に取り組んでまいります。また、2018年12月19日付でBristol-Myers Squibb Company（本社：米国ニューヨーク州）との間で締結した、同社が子会社を通して所有するフランスの医薬品製造販売会社UPSA社の株式・資産譲渡予約契約についても、2019年7月1日（フランス時間）に株式・資産取得手続きが完了し、UPSA社は大正製薬の完全子会社となりました。今後成長が期待される地域にも事業を拡げていく方針のもと、東南アジア市場に欧州市場を加えた2極体制により海外事業の拡大を図り、持続的な成長の実現を目指してまいります。

医薬事業部門でも、きめ細かい情報提供活動による育成品の売上最大化を図っております。また、開発化合物の早期承認取得を目指すとともに、導入によるパイプラインの強化を進めています。さらに、外部研究機関との連携を強化し、継続的なオリジナル開発化合物の創出に努めております。

当第3四半期連結累計期間のグループ全体売上高は、2,143億円（前年同四半期比+29億6千2百万円、1.4%増—以下増減の比較については「前年同四半期比」の説明とする）となりました。

セグメント別の売上高は次のとおりであります。

セルフメディケーション事業	1,692億円	(+ 114億円	7.2%増)
内訳			
国内	988億円	(△ 142億円	12.5%減)
海外	677 "	(+ 255 "	60.3%増)
その他	26 "	(+ 1 "	2.4%増)
医薬事業	451億円	(△ 84億円	15.7%減)
内訳			
医療用医薬品	443億円	(△ 79億円	15.1%減)
その他	8 "	(△ 5 "	39.1%減)

主要製品・地域の売上状況は次のとおりであります。

<セルフメディケーション事業>

当第3四半期連結累計期間の売上高は、1,692億円（+114億円、7.2%増）となりました。

主力ブランドでは、「リポビタンシリーズ」は、359億円（12.0%減）となりました。「パブロンシリーズ」は、156億円（29.4%減）となりました。「リアップシリーズ」は、117億円（0.7%減）となりました。「ビオフェルミンシリーズ」は、74億円（10.2%減）となりました。

海外では、DHG（ハウザン）社及びUPSA社の子会社化の影響もあり、アジア地域で292億円（3.0%減）、欧米地域で376億円となりました。

<医薬事業>

当第3四半期連結累計期間の売上高は、451億円（△84億円、15.7%減）となりました。

主な増収品目は、2型糖尿病治療剤「ルセフィ」83億円（64.8%増）、骨粗鬆症治療剤「ボンビバ」53億円（4.2%増）となりました。一方、骨粗鬆症治療剤「エディロール」143億円（31.5%減）、経皮吸収型鎮痛消炎剤「ロコア」は30億円（0.7%減）、末梢循環改善剤「パルクス」は19億円（25.5%減）、マクロライド系抗生物質製剤「クラリス」は18億円（48.0%減）と、薬価改定や後発医薬品の影響に加え、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う受診抑制等の影響もあり前年比マイナスとなりました。

利益面につきましては、海外事業の拡大により売上高が増加し、営業利益は22.1%増の208億6千4百万円となりました。経常利益につきましては、為替差損益や受取利息の減少により、22.0%増の247億4千2百万円となりました。また、DHG（ハウザン）社の子会社化に伴う段階取得に係る差益がなくなったため、親会社株主に帰属する四半期純利益は20.0%減の142億3千5百万円となりました。

なお、2019年5月20日に行われたDHG（ハウザン）社との企業結合について前第1四半期連結会計期間より暫定的な会計処理を行っていましたが、前連結会計年度末に確定したため、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させた数値で前年同四半期連結累計期間との比較・分析を行っております。

また、2019年7月1日に行われたUPSA社との企業結合について前第2四半期連結会計期間より暫定的な会計処理を行っていましたが、第1四半期連結会計期間に確定したため、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させた数値で前年同四半期連結累計期間との比較・分析を行っております。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ36億円減少し、8,613億円となりました。現金及び預金が120億円、投資有価証券が58億円、それぞれ増加しましたが、有価証券が111億円、商標権が38億円、のれんが45億円、それぞれ減少しました。

負債は、前連結会計年度末に比べ91億円減少し、1,161億円となりました。

純資産は、前連結会計年度末に比べ54億円増加し、7,452億円となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益142億円、その他有価証券評価差額金29億円が主な増加要因であり、剰余金の配当88億円、為替換算調整勘定23億円が主な減少要因でした。

第1四半期連結会計期間においてUPSA社との企業結合に係る暫定的な会計処理を確定したため、前連結会計年度の財務数値の修正を行いました。その結果、のれんは367億円減少し、1,332億円となっております。ほか、主な変動要因として、商標権が485億円、繰延税金負債が131億円それぞれ増加しております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第3四半期までの業績の動向等を踏まえ、2020年5月14日に公表しました通期連結業績予想を以下のとおり修正いたします。

ー売上高

売上高予想を従来の予想から65億円引き下げ、2,830億円に修正いたします。

セルフメディケーション事業では、新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、国内につきましては、総合感冒薬の売上が期初想定以上に減少したため従来の予想から53億円、海外につきましては、アジア地域での売上が期初想定以上に減少したため従来の予想から15億円、それぞれ引き下げます。その他につきましては従来の予想を据え置きます。

医薬事業につきましては、ロイヤルティの実績等を織り込み、3億円予想を引き上げます。

ー利益面

営業利益の予想を210億円（従来予想比10億円増）、経常利益の予想を255億円（従来予想比25億円増）、親会社株主に帰属する当期純利益の予想を140億円（従来予想比10億円増）に修正いたします。

売上高予想引き下げにより売上総利益が減少しますが、販売費及び一般管理費、営業外損益等を第3四半期までの実績を踏まえ見直しております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	223,814	235,859
受取手形及び売掛金	65,463	62,066
有価証券	14,089	3,003
商品及び製品	26,616	31,653
仕掛品	3,176	3,033
原材料及び貯蔵品	13,577	14,676
その他	9,334	5,033
貸倒引当金	△449	△366
流動資産合計	355,623	354,959
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	53,999	52,091
機械装置及び運搬具（純額）	15,059	14,046
土地	38,170	38,911
建設仮勘定	2,490	2,884
その他（純額）	2,928	2,870
有形固定資産合計	112,648	110,804
無形固定資産		
のれん	133,169	128,661
販売権	690	587
商標権	73,144	69,322
ソフトウェア	6,570	9,125
その他	8,236	7,964
無形固定資産合計	221,811	215,661
投資その他の資産		
投資有価証券	145,831	151,644
関係会社株式	11,644	11,996
長期前払費用	1,009	1,030
退職給付に係る資産	4,642	4,981
繰延税金資産	11,134	9,590
その他	862	892
貸倒引当金	△233	△232
投資その他の資産合計	174,891	179,903
固定資産合計	509,351	506,370
資産合計	864,974	861,329

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	18,045	14,461
未払金	15,743	13,893
未払法人税等	5,414	2,895
未払費用	19,310	15,500
返品調整引当金	767	867
賞与引当金	3,769	4,334
その他	3,404	5,200
流動負債合計	66,456	57,153
固定負債		
役員退職慰労引当金	1,006	959
退職給付に係る負債	21,029	21,456
繰延税金負債	30,042	30,310
その他	6,660	6,232
固定負債合計	58,739	58,958
負債合計	125,196	116,112
純資産の部		
株主資本		
資本金	30,000	30,000
資本剰余金	—	13
利益剰余金	698,223	703,921
自己株式	△35,454	△35,436
株主資本合計	692,768	698,498
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	20,796	23,676
為替換算調整勘定	△1,145	△3,480
退職給付に係る調整累計額	△3,046	△2,905
その他の包括利益累計額合計	16,605	17,290
新株予約権	773	802
非支配株主持分	29,630	28,626
純資産合計	739,778	745,217
負債純資産合計	864,974	861,329

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
売上高	211,338	214,300
売上原価	77,126	77,523
売上総利益	134,212	136,776
返品調整引当金戻入額	853	659
返品調整引当金繰入額	763	766
差引売上総利益	134,302	136,669
販売費及び一般管理費	117,215	115,805
営業利益	17,086	20,864
営業外収益		
受取利息	3,111	1,345
受取配当金	1,892	1,810
持分法による投資利益	210	221
その他	446	813
営業外収益合計	5,661	4,190
営業外費用		
支払利息	34	100
為替差損	2,194	—
支払手数料	59	60
その他	186	150
営業外費用合計	2,474	311
経常利益	20,273	24,742
特別利益		
固定資産売却益	8	17
段階取得に係る差益	6,093	—
特別利益合計	6,102	17
特別損失		
固定資産処分損	123	444
投資有価証券評価損	—	152
減損損失	592	—
特別損失合計	715	597
税金等調整前四半期純利益	25,660	24,162
法人税等	7,088	8,261
四半期純利益	18,572	15,901
非支配株主に帰属する四半期純利益	778	1,665
親会社株主に帰属する四半期純利益	17,793	14,235

(四半期連結包括利益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
四半期純利益	18,572	15,901
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,459	2,613
繰延ヘッジ損益	△2,181	—
為替換算調整勘定	△7,234	△3,203
退職給付に係る調整額	544	924
持分法適用会社に対する持分相当額	557	306
その他の包括利益合計	△9,771	640
四半期包括利益	8,800	16,541
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	8,009	15,712
非支配株主に係る四半期包括利益	790	828

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

I 比較情報における取得原価の当初配分額の重要な見直し(DHG(ハウザン)社)

2019年5月20日に行われたDHG(ハウザン)社との企業結合について前第1四半期連結会計期間から前第3四半期連結会計期間においては、暫定的な会計処理を行っていましたが、前連結会計年度末に確定しております。

この暫定的な会計処理の確定に伴い、当第3四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表に含まれる比較情報において取得原価の当初配分額に重要な見直しが反映されております。

II 企業結合に係る暫定的な処理の確定及び比較情報における取得原価の当初配分額の重要な見直し(UPSA社)

2019年7月1日に行われたUPSA社との企業結合について前第2四半期連結会計期間から前連結会計年度末においては、暫定的な会計処理を行っていましたが、第1四半期連結会計期間に確定しております。

この暫定的な会計処理の確定に伴い、当第3四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表に含まれる比較情報において取得原価の当初配分額に重要な見直しが反映されております。暫定的に算定されたのれんの金額142,340百万円は、36,547百万円減少し、105,793百万円となりました。のれんの減少は、主として商標権が49,748百万円、繰延税金負債が12,981百万円増加したことによるものです。

上記I、IIの結果、前第3四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書は、営業利益が483百万円減少し、経常利益、税金等調整前四半期純利益がそれぞれ697百万円減少し、親会社株主に帰属する四半期純利益が136百万円減少しております。また、前連結会計年度末の連結貸借対照表は、主としてのれんが36,693百万円減少し、商標権が48,524百万円、繰延税金負債が13,099百万円増加しております。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計
	セルフメディケーション事業	医薬事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	157,824	53,513	211,338	—	211,338
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	157,824	53,513	211,338	—	211,338
セグメント利益(注2)	13,633	4,743	18,376	△1,290	17,086

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに帰属しない当社(純粋持株会社)であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

3 「(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(企業結合等関係)」の「比較情報における取得原価の当初配分額の重要な見直し(DHG(ハウザン)社)」及び「企業結合に係る暫定的な処理の確定及び比較情報における取得原価の当初配分額の重要な見直し(UPSA社)」に記載の見直しに伴い、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、当該見直し反映後のものを記載しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「セルフメディケーション事業」セグメントにおいて、前第1四半期連結会計期間に行われたDHG(ハウザン)社との企業結合について、取得原価の配分が完了していなかったため、のれん金額は暫定的に算出された金額でありましたが、前連結会計年度末に取得原価の配分が完了し、暫定的な会計処理が確定したため、のれん金額を修正しております。

この結果、のれん19,281百万円を計上しております。

「セルフメディケーション事業」セグメントにおいて、前第2四半期連結会計期間に行われたUPSA社との企業結合について、取得原価の配分が完了していなかったため、のれん金額は暫定的に算出された金額でありましたが、第1四半期連結会計期間に取得原価の配分が完了し、暫定的な会計処理が確定したため、のれん金額を修正しております。

この結果、のれん105,793百万円を計上しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計
	セルフメディケーション事業	医薬事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	169,177	45,123	214,300	—	214,300
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	169,177	45,123	214,300	—	214,300
セグメント利益(注2)	16,855	5,496	22,352	△1,488	20,864

(注) 1 「その他」の区分は、主に報告セグメントに帰属しない当社(純粋持株会社)であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「セルフメディケーション事業」セグメントにおいて、前第2四半期連結会計期間に行われたUPSA社との企業結合について、取得原価の配分が完了していなかったため、のれんの金額は暫定的に算出された金額でありましたが、第1四半期連結会計期間に取得原価の配分が完了し、暫定的な会計処理が確定したため、のれんの金額を修正しております。詳細は、「(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(企業結合等関係)」に記載のとおりです。